

平成 28 年度 福井大学学術交流協定校（フィンドレー大学）への派遣留学生（交換留学）
募集要項

福井大学では、世界各国の学術交流協定校と授業料相互不徴収による学生交流を行っています。派遣先の大学では、現地学生とともに正規開講科目を受講したり、語学集中コースの受講をすることにより、専門性や語学力の強化を図ることができます。

平成 28 年（2016 年）秋学期からの交換留学生については、平成 28 年 1 月 15 日を締切として学内募集を行いました。応募者がいなかったフィンドレー大学（アメリカ）について、下記の通り再募集を行います。なお、他学術交流協定校への交換留学については、今回募集を行いません。

記

1. 募集大学：フィンドレー大学（アメリカ）
2. 募集人数：1 名
3. 派遣期間：平成 28 年（2016 年）秋学期から 1 学期（半年）または 2 学期（1 年）
4. 授業料：派遣先大学における検定料、入学料および授業料は不徴収。
ただし、留学中も本学に在籍することになりますので、本学へ授業料を納入。
5. 単位：帰国後の手続きにより、派遣先大学で修得した単位を本学における授業科目の履修により修得したものとして単位認定できる場合があります。
※詳細は、参考資料（P5）参照
6. 奨学金：日本学生支援機構海外留学支援制度奨学金 対象
福井大学学生海外派遣支援金 対象
※詳細は、参考資料（P5, 6）参照
7. 選考方法：書類審査および面接審査（日本語及び場合によっては英語）を行います。
派遣留学生に選ばれた場合は、原則として辞退できません。
8. 提出書類：① 留学申込書（所属別）
② 留学計画書（工・医）／学習計画書（教）
③ 平成 28 年度 福井大学学術交流協定校交換留学 留学調査票
④ 語学能力を証明する書類の写し（英語の場合は TOEFL 等）
⑤ 留学に係る経費負担証明書
⑥ 学業成績通知表
9. 応募方法：申込締切 平成 28 年 4 月 20 日（水）17：00
上記の提出書類を応募締切日までに国際課に提出（大学会館 1F／管理棟 1F 松岡キャンパス学務室内）に提出。
※ 応募を検討する学生は、応募資格等の確認のため、国際課職員との個別面談を行います。4 月 15 日（金）までに国際課まで申し出てください。

<問合せ先・参加申込書類提出先>

文京・敦賀：国際課（大学会館1F）

Tel: 0776-27-8404 Email: studyabroad@ml.u-fukui.ac.jp

松岡：国際課（管理棟1F松岡キャンパス学務室内）

Tel: 0776-61-8849 Email: studyabroad@ml.u-fukui.ac.jp

参考資料

■ 留学の流れ

	第1期	第2期
以前	※留学目的を明確にする ※行先（国、大学）、留学時期を決定	
12月	募集開始 留学説明会実施	
1月	応募締切	
2月	選考（書類・面接） 派遣可否・奨学金推薦順位決定 「留学願」の申請 学内委員会にて留学承認	
2-4月	各大学への申請手続き	
3月	オリエンテーション	
4-5月	各大学からの受入許可通知 ビザ取得	※留学目的を明確にする ※行先（国、大学）、留学時期を決定
7月	オリエンテーション	募集開始
8月	留学開始	
9月		応募締切 選考（書類・面接）
10月		派遣可否・奨学金推薦順位決定 「留学願」の申請 学内委員会にて留学承認 各大学への申請手続き
11月		オリエンテーション
1月		各大学からの受入許可通知 ビザ取得 オリエンテーション
2月		留学開始
3月		
4月		
5月	帰国、報告書提出	
		帰国、報告書提出

■ 語学能力について

交換留学に際しては、以下の英語試験のスコアが必要になる場合があります。フィンドレー大学の場合は、TOEFL iBT63 を推薦の基準としています。なお、TOEIC のスコアは利用できない場合がありますので、ご注意ください。

テスト名	特徴
TOEFL iBT	TOEFL iBT (Test of English as a Foreign Language internet-Based Test) は、米国で開発された英語力判断テストで、試験会場でインターネットを通して行われる。Reading, Listening, Speaking, Writing の4つのセクションに分かれ、所用時間は計4時間半程度。主にアメリカやカナダの大学に留学する際に必要になる。 CIEE(国際教育交流協議会) http://www.cieej.or.jp/toefl/index.html
TOEFL ITP	TOEFL ITP は、TOEFL PBT のテスト問題を受け継いで作成されているペーパーベース(マークシート多肢選択式)のテスト。TOEFL PBT のスコアとの相関性・妥当性が高いテストであるため、語学能力を示すスコアとして公式に扱われる場合も多い。TOEFL iBT は受験日や受験地が限られていたり、受験費用が高いのに対し、TOEFL ITP の団体受験であれば受験日や受験地を問わず、費用も6分の1で受けられる(福井大学でも年に2回実施しています)。 CIEE(国際教育交流協議会) http://www.cieej.or.jp/toefl/itp/index.html
IELTS	IELTS (International English Language Testing System)は、英国で開発された英語力判断テストで、Listening, Reading, Writing, Speaking の4つのセクションに分かれている。留学に際しては、アカデミックモジュールの受験が必要。TOEFL iBT と異なり記述式のテスト。主にイギリスやオーストラリアの大学で用いられている。 日本英語検定協会 http://www.eiken.or.jp/ielts/index.html

■ 危機管理について

海外渡航・滞在中の事故や病気に備え、本学が指定する海外旅行保険に必ず加入いただきます(クレジットカードに付帯している簡易な保険では不十分です)。また、留学先の国や大学が現地での保険加入を義務付けている場合もあります。その場合は、補償内容が異なりますので、必要に応じて両方の保険に加入いただきます。本学および各協定校は、万一の事態が発生した際の援助について合意しています。

■ 交換留学にかかる費用

交換留学先の大学では、入学金や授業料の支払いは不要ですが、以下の費用は自己負担になります。

項目	おおよその費用
ビザ申請に関わる費用	申請費用：数万円 (例：アメリカ学生ビザUS\$360) ※申請費用や申請方法は頻繁に変更になります。 ※申請にあたっては、各国のビザセンターに出向く必要があります。
往復航空運賃	自己手配いただきます。アメリカの場合15~20万円程度。
海外旅行保険	17万円程度(年間)

現地の健康保険（加入が義務付けられている場合）	現地加入保険は国や大学により異なります。
宿舍費	大学の寮に入寮できる場合も多く、自己手配より安価に滞在できます。宿舍費は各大学によります。
生活費（食費、交通費、雑費、娯楽等）×滞在月数	国・地域、個人により異なります。

■ 単位

福井大学学則第 49 条、大学院学則第 32 条及び福井大学特別聴講派遣学生及び特別聴講学生規程第 7 条に基づき、派遣先大学で修得した単位を本学の授業科目の単位として認定される場合があります。

単位認定には、帰国後、すみやかに所定の手続きが必要であり、申請書の提出を受けてから学内委員会での承認によって認定科目・単位が決定します。各学部専門教育や共通教育等で認定できる科目の条件が異なりますので、単位の認定を希望する学生は、必ず事前及び単位認定承認後に担当する責任教員等（講座主任、学年主任、学科長または助言教員）と相談し、履修計画について適切な指導を受けて下さい。

また、申請を円滑に行うため、留学中に派遣大学での「成績証明書」、「在学期間証明書」、「講義概要(写し可)」等を準備することをお奨めします。必要書類や手続き等については、教務課（文京キャンパス）または松岡キャンパス学務室（松岡キャンパス）へ事前に相談して下さい。

単位認定例：

留学先での修得科目	本学での認定科目
German	ドイツ語
Writing Review for Non-Native Speakers	ライティング
Daily Life in the English Speaking World	英語コミュニケーション総合 I
Ethnicity	多文化コミュニケーション

■ 奨学金

派遣先によって、各種奨学金を受給できる可能性があります。以下は、返済不要の奨学金の一例です。

・ 日本学生支援機構海外留学支援制度による奨学金

対象 本学の学術交流協定校等へ交換留学をする者

条件 以下の全ての条件を満たしていること

- ・ 日本国籍を有する者または日本への永住が許可されている者
- ・ 前年度の成績評価係数（総登録単位数）が 2.3/3.0 以上
- ・ 語学力が原則 TOEIC400 点以上、または前年度の英語の成績が 2.3/3.0 以上
- ・ 家計基準（原則、日本学生支援機構第二種奨学金支給基準に準じる）をクリアするもの

支給人数 支給可能人数には上限があるため、選考点上位者より支給を決定する

支給額 アメリカ：月額 8 万円

選考時期 学術交流協定校への交換留学が決定した時点で選考

・ 福井大学学生海外派遣支援金

対象	本学の学術交流協定校等への交換留学をする者、本学で単位付与がある短期海外研修プログラムに参加する者
条件	以下の全ての条件を満たしていること ・ 日本国籍を有する者又は日本への永住者 ・ 学業成績が優秀で人格等に優れている者 その他については、募集要項を確認すること
支給人数	支給可能人数は予算の範囲内のため、選考による上位者より支給を決定する
支給額	留学期間が6か月以上の場合：金額未定
募集時期	前期（5月頃）・後期（12月頃）毎に募集。渡航を開始する期に各募集要項を入手の上、各自が申請すること。

上記の奨学金以外にも、福井県や民間企業等が提供する奨学金制度等もあります。海外留学のための奨学金一般については、日本学生支援機構のウェブサイトをご確認いただき、各自でご応募をお願いします。国際課でも情報提供をしています。

URL: <http://www.jasso.go.jp/>

■ 留学前・留学中・留学後の支援

留学前：オリエンテーションを実施し、海外での生活や大学生活における心構えをご説明します。また、各種手続きについてのアドバイスも行いますので、初めての長期渡航であっても不安なく準備できるようサポートします。

留学中：本学教職員および学術交流協定校の教職員が連携し、サポートする体制を整えています。

留学後：留学先での経験を最大限に活かすことができるようアドバイスしています。

■ 報告書の提出

留学中は、大学指定の様式による月次報告書の提出、帰国後には帰国後報告書の提出をいただきます。

■ その他

交換留学に関するお問い合わせは、国際課までお願いします。

■ 学術交流協定校一覧（平成 27 年 11 月現在）

大学間交流協定

機 関 名	国 名	学生交流
ラトガーズ大学	アメリカ合衆国	
西安外国語大学	中国	○
西安理工大学	中国	○
浙江大学	中国	○
ロシア科学アカデミー応用物理学研究所	ロシア	
北京信息科技大学	中国	○
浙江理工大学	中国	○
南昌航空大学	中国	○
國立雲林科技大學	台湾	○
江南大学	中国	○
インドネシア大学	インドネシア	○
リヨン繊維・化学技術院	フランス	○
蘇州大学	中国	○
クレムソン大学	アメリカ合衆国	○
メーン大学	フランス	○
東華大学	中国	○
イティハッド大学	アラブ首長国連邦	○
瀋陽師範大学	中国	○
シャクアラ大学	インドネシア	○
天津科技大学	中国	○
フィンドレー大学	アメリカ合衆国	○
武漢科技大学	中国	○
上海理工大学	中国	○
ベトナム教育訓練省国際教育開発局	ベトナム	
電力大学	ベトナム	
スィーパトゥム大学	タイ	
マラヤ大学	マレーシア	○
UMAP (University Mobility in Asia and the Pacific)		○
キングモンクト工科大学	タイ	○
東亜大学校	韓国	○
ハル・オレオ大学	インドネシア	○
ダナン大学	ベトナム	

部局間交流協定

部 局 名	機 関 名	国 名	学生交流
教育地域科学部	ハンブルク大学人文科学部アジア・アフリカ研究所	ドイツ	○
遠赤外領域開発研究センター	シドニー大学 School of Physics	オーストラリア	
高エネルギー医学研究センター	ワシントン大学医学部マリクロット放射線医学研究所	アメリカ合衆国	
工学部	延世大学工科大学	韓国	○
工学部	クルナ科学技術大学	バングラデシュ	○
遠赤外領域開発研究センター	D. Y. Efremov 電気物理研究所精密理工学センター	ロシア	
工学部	天津工業大学	中国	○
工学部	ワルシャワ工科大学化学プロセス工学部	ポーランド	○
遠赤外領域開発研究センター	カールスルーエ研究センター パルス出力・マイクロ波研究所	ドイツ	
工学部	釜慶大学校工科大学	韓国	○
工学部	内蒙古工業大学	中国	○
工学部	嶺南大学校工科大学	韓国	○
工学部	モンゴル科学技術大学	モンゴル	○
遠赤外領域開発研究センター	中国電子科技大学プラズマ研究所	中国	
遠赤外領域開発研究センター	ブルガリア科学アカデミー電子工学研究所	ブルガリア	
遠赤外領域開発研究センター	シュトゥットガルト大学プラズマ研究所	ドイツ	
教育地域科学部	釜山大学校師範大学	韓国	○
工学部	東南大学動力工程系	中国	○
工学部	ロシア科学アカデミーシベリア地区物理学研究所	ロシア	○
医学部	オタワ大学医学部	カナダ	○
教育地域科学部	上海師範大学	中国	○
医学部	マケレレ大学医学部	ウガンダ共和国	○
工学研究科	蘭州交通大学機電工程学院	中国	○
工学研究科	國立臺灣科技大學工程学院	台湾	○
工学研究科	成均館大学校工科大学	韓国	○
工学研究科	國立清華大学工学院	台湾	○
遠赤外領域開発研究センター	ソウル国立大学テラヘルツバイオ応用システムセンター	韓国	

遠赤外領域開発研究センター	フィリピン大学物理学研究所	フィリピン	
医学部	インド国立鉱業医学研究所・タイ王国中央胸部疾患研究所	インド・タイ	
附属国際原子力研究所	西安交通大学核科学与技術学院	中国	
工学研究科	ラジャマンガラ工科大学イサン校工学・建築学部	タイ	○
産学官連携本部	タマサート大学東アジア研究所	タイ	
医学部、医学部附属病院	紹興市人民病院	中国	
遠赤外領域開発研究センター	ラトビア大学固体物理研究所	ラトビア	
工学研究科	蘭州交通大学電子与信息工程学院・自動化与電気工程学院	中国	○
医学部	ロシア医学アカデミーシベリア支部イルクーツク州立再建・移植外科研究センター	ロシア	○
産学官連携本部	サンマルコス大学地質・鉱業・冶金・地理工学部	ペルー	
遠赤外領域開発研究センター	デ・ラ・サール大学理学部	フィリピン	
工学部	シーナカリンウィロート大学工学部	タイ	○
工学研究科	ロシア科学アカデミーカザン科学センター	ロシア	
遠赤外領域開発研究センター	国立精華大学光電研究センター	台湾	
工学研究科	コンソーシアム（ENEN ASSOCIATION, INSTN, UPB, SCK・GEN）		
工学研究科	中部電力短大	ベトナム	
産学官連携本部	チャンカセム・ラチャパット大学人文社会学部	タイ	
産学官連携本部	カレッジ・オブ・アジアンスカラーズ	タイ	
医学部	オンドクズマユス大学医学部	トルコ	○
国際地域学部	チュラロンコン大学人文学部	タイ	○

以上